



THE BEGINNING OF
ENGLISH INTERPRETATION

選択肢

- | | | | |
|-----------------|------------|-------------|-----------|
| ① matters | ② whether | ③ prevent | ④ gradual |
| ⑤ underestimate | ⑥ when | ⑦ ordinary | ⑧ guided |
| ⑨ what | ⑩ hesitate | ⑪ which | ⑫ yet |
| ⑬ instead of | ⑭ however | ⑮ practical | |

解答

- (1) ⑭ however (2) ⑦ ordinary
(3) ④ gradual (4) ⑤
underestimate (5) ③ prevent
(6) ⑥ when (7) ② whether (8)
⑪ which (9) ⑮ practical (10)
⑧ guided
(11) ⑨ what (12) ⑫ yet (13) ⑩
hesitate (14) ① matters (15)
⑬ instead of
-

解答解説

- (1) 正解 ⑭ however
空所は文頭にあり、後ろにカンマがあります。ここには文と文を意味的につなぐ接続副詞が入ります。前文では「大きな変化は一つの大きな決断から始まると思われている」と述べ、後文では「実際には小さな選択の積み重ねから始まる」と述べています。内容が逆接なので however「しかしながら」が適切です。
- (2) 正解 ⑦ ordinary
空所の前に seem があります。seem の後ろには形容詞が入り、「～に見える」という意味になります。
- (3) 正解 ④ gradual
空所の後ろに effect という名詞があります。したがって、ここには名詞を修飾する形容詞が入ります。
- (4) 正解 ⑤ underestimate
空所は主語 people の述語動詞の位置です。後ろに the power of small actions「小さな行動の力」が続いているので、他動詞が必要です。
- (5) 正解 ③ prevent
空所の後ろに them from starting があります。これは prevent A from

～ing「A が～するのを妨げる」の形です。

(6) 正解 ⑥ when
空所の後ろには life becomes busy という完全な節があります。ここには接続詞が必要です。even when ～で「～するときでさえ」という意味になります。

(7) 正解 ② whether
The point is not A, but whether B の形です。whether は「～かどうか」という名詞節を導きます。

(8) 正解 ⑪ which
空所の前に前置詞 in があり、先行詞は situations です。in which small decisions matter で「小さな決断が重要になる状況において」という意味になります。in which は where に近い働きをします。

(9) 正解 ⑮ practical
空所の前に they are があります。be 動詞の後ろなので、補語になる形容詞が必要です。

(10) 正解 ⑧ guided
空所の前に is often があり、後ろに by ordinary choices があります。したがって、be 動詞＋過去分詞＋by の受動態が必要です。

(11) 正解 ⑨ what
空所は through の後ろにあり、前置詞の目的語になる名詞節が必要です。

(12) 正解 ⑫ yet
前半では「小さな一歩は弱く見える」と述べ、後半では「強い結果につながる」と述べています。内容が逆接なので yet「それでも、しかし」が適切です。

(13) 正解 ⑩ hesitate
空所の前に should not があるため、後ろには動詞の原形が必要です。hesitate は「ためらう」という意味です。

(14) 正解 ① matters
What (14) most is... の形です。

(15) 正解 ③ instead of
空所の後ろに giving up という動名詞があります。instead of ~ing で「~する代わりに」という意味になります。

全訳

多くの人は、重要な変化は一つの大きな決断から始まると考えています。しかし実際には、多くの変化は毎日繰り返される小さな選択から始まります。より健康になりたい人は、すべてを一度に変える必要はありません。

例えば、エレベーターの代わりに階段を選ぶことは、ありふれたことに見えるかもしれませんが、そのような小さな行動も繰り返されることで意味のあるものになります。日々の習慣は、時間をかけて徐々に効果をもたらすことができます。

一つの問題は、人々がしばしば小さな行動の力を過小評価してしまうことです。彼らは、劇的な努力だけが結果を生み出すと信じています。この考えは、彼らが何かを始めること自体を妨げてしまうかもしれません。

良い習慣は、生活が忙しくなったときでも続けられるほど簡単なものであるべきです。大切なのは、完璧にできるかどうか

かではなく、それを続けられるかどうかです。

小さな決断が重要になる場面は数多くあります。生徒は寝る前に一ページだけ復習するかもしれません。会社員は職場を離れる前に翌日の仕事の準備をするかもしれません。これらの行動は目立つものではありませんが、とても実用的です。

結局のところ、進歩はしばしば日常の選択によって導かれます。人は特別な出来事だけによって変わるのではなく、毎日行うことによっても変わります。小さな一歩は弱々しく見えるかもしれませんが、それでも大きな成果につながるがあります。

長い旅と同じように、本当の変化には忍耐が必要です。結果がすぐに現れないからといって、ためらうべきではありません。ゆっくりとした過程であっても、正しい方向へ進んでいるなら価値があります。最も重要なのは、あきらめる代わりに続ける力なのです。

Students should ask (8) a mistake happened because of carelessness or because of a deeper misunderstanding. They should not be afraid of questions (9) there is no easy answer.

In many cases, learning occurs when students are challenged. A difficult problem may leave them (10) at first, but it may also help them discover a better way of thinking. The confidence gained from solving such problems can be (11) greater than the satisfaction of answering an easy question.

Good teachers understand this process. They know that students should be guided, not protected from every difficulty. A student may learn more from a difficult question (12) from an easy explanation.

In the end, mistakes are not obstacles to learning. They are part of the learning process itself. A person who keeps trying (13) often be much wiser than someone (14) avoids challenges. For this reason, mistakes should be seen (15) opportunities rather than failures.

選択肢

- ① whether ② from ③ will ④ how
- ⑤ why ⑥ far ⑦ who ⑧ as
- ⑨ where ⑩ regarded ⑪ to ⑫ than
- ⑬ much ⑭ rather ⑮ confused

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					

解答

(1) ② from (2) ⑩ regarded (3) ⑬ much (4) ⑪ to (5) ⑭ Rather (6) ④ how (7) ⑤ why (8) ① whether (9) ⑨ where (10) ⑮ confused (11) ⑥ far (12) ⑫ than (13) ③ will (14) ⑦ who (15) ⑧ as

解答解説

(1) 正解 ② from
develop from A「A から発展する」の形です。

(2) 正解 ⑩ regarded
be regarded as A「A とみなされる」の形です。

(3) 正解 ⑬ much
much + 比較級の形です。much fewer mistakes で「はるかに少ない失敗」という意味になります。few の比較級 fewer を much が強めています。

(4) 正解 ⑪ to
The purpose is not to make students uncomfortable. の形です。

(5) 正解 ⑭ Rather
前文では「生徒を不快にすることが目的ではない」と述べ、後文では「深い思考を促すことが目的である」と述べています。Rather は「むしろ」という意味の副詞です。

(6) 正解 ④ how
how much S V の間接疑問です。

(7) 正解 ⑤ why
explain why S V「なぜ～なのかを説明する」の形です。explain why an

answer is wrong で「なぜ答えが間違っているのかを説明する」となります。

(8) 正解 ① whether
whether S V「～かどうか」という名詞節を導きます。

(9) 正解 ⑨ where
questions where there is no easy answer で「簡単な答えのない問題」という意味になります。

(10) 正解 ⑮ confused
leave O C の SVOC です。

(11) 正解 ⑥ far
far + 比較級の形です。far greater than ... で「～よりはるかに大きい」となります。far は比較級を強める副詞です。

(12) 正解 ⑫ than
more A than B の比較構文です。

(13) 正解 ③ will
A person who keeps trying will often be ... の形です。主語は A person who keeps trying で、その述語動詞を作る助動詞 will が必要です。

(14) 正解 ⑦ who
someone who avoids challenges の形です。who は関係代名詞で、先行詞 someone を修飾しています。「困難を避ける人」という意味です。

(15) 正解 ⑧ as
see A as B「A を B とみなす」の形です。mistakes should be seen as opportunities で「失敗は機会とみなされるべきだ」となります。

全訳

多くの生徒は失敗することを嫌います。答えを間違えると恥ずかしいと感じることがよくあります。しかし、学習はしばしば成功だけでなく失敗から発展します。実際、人は最初から正しく理解できたことよりも、間違いから多くを学ぶことがよくあります。

その理由の一つは、失敗が「自分が信じていること」と「実際に正しいこと」との違いを示してくれるからです。この違いは、生徒により深く考えさせることがあります。失敗は、失敗ではなく価値ある情報としてみなされることがあります。

生徒の中には他人と自分を比べて落ち込んでしまう人もいます。彼らは、成績の良い生徒ははるかに少ない失敗しかしないと思っています。しかし実際には、優秀な生徒も多くの失敗をしますが、あきらめずに努力を続けます。

教師はしばしば、すぐには答えがわからない質問をします。その目的は生徒を不快にさせることではありません。むしろ、その目的はより深い思考を促すことにあります。生徒は、間違いを修正した後、自分がどれほど多くのことを学んだかに驚くことがあります。

失敗は記憶力を高めることにも役立ちます。訂正された情報は、より鮮明に記憶されることがよくあります。これが、教師が生徒に「なぜその答えが間違っているのか」を説明させる理由の一つです。

もちろん、生徒が失敗を正直に振り

返る場合にのみ、失敗は役立ちます。自分の誤りを無視する生徒は、その経験からまったく利益を得られないかもしれません。一方で、注意深く振り返る生徒は着実に成長することができます。

生徒は、その失敗が単なる不注意によるものなのか、それとももっと深い誤解によるものなのかを考えるべきです。また、簡単な答えのない問題を恐れるべきではありません。

多くの場合、生徒は挑戦を与えられたときに学習します。難しい問題は最初は生徒を混乱させるかもしれませんが、それによってより良い考え方を発見する助けになることもあります。そのような問題を解決して得られる自信は、簡単な問題に答えたときの満足感よりもはるかに大きいことがあります。

優れた教師はこの過程を理解しています。彼らは、生徒があらゆる困難から守られるべきではなく、適切に導かれるべきだと知っています。生徒は、簡単な説明よりも難しい問題から多くを学ぶことがあります。

結局のところ、失敗は学習の妨げではありません。失敗そのものが学習過程の一部なのです。努力し続ける人は、困難を避ける人よりもずっと賢くなるでしょう。そのため、失敗は失敗としてではなく、成長の機会として捉えられるべきなのです。

(11) and helps students face the next day. In the end, sleep should be seen (12) an important part of study, not as a waste of time. Students should think carefully about (13) they use their nights. A healthy daily rhythm can (14) them study better, and poor sleep can leave them (15) the next morning.

選擇肢

- ① how ② clear ③ nevertheless ④ with
 ⑤ help ⑥ which ⑦ whatever ⑧ successful
 ⑨ who ⑩ to ⑪ tired ⑫ why
 ⑬ as ⑭ less ⑮ attention

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					

解答

(1) ③ nevertheless (2) ⑦ whatever (3) ⑮ attention (4) ⑫ why (5) ⑭ less (6) ⑧ successful (7) ⑥ which (8) ⑩ to (9) ④ with (10) ⑨ who (11) ② clear (12) ⑬ as (13) ① how (14) ⑤ help (15) ⑪ tired

解答解説

(1) 正解 ③ nevertheless
前文と後文が逆接関係です。nevertheless「それにもかかわらず」が適切です。

(2) 正解 ⑦ whatever
remember whatever they have learned で「学んだことは何でも覚えている」という意味です。

(3) 正解 ⑮ attention
pay attention「注意を払う」の形です。pay enough attention in class で「授業中に十分注意を払う」となります。

(4) 正解 ⑫ why
This is one reason why S V「これが～する理由の一つである」の形です。

(5) 正解 ⑭ less
less useful than ～「～より役に立たない」という比較表現です。

(6) 正解 ⑧ successful
make O C「OをCにする」の形です。make the next day's study more successful で「翌日の勉強をよりうまくいくものにする」となります。

(7) 正解 ⑥ which
things which they later regret の形です。which は先行詞 things

を修飾する関係代名詞です。

(8) 正解 ⑩ to
too ～ to V「～すぎてVできない」の形です。too sleepy to listen carefully となります。

(9) 正解 ④ with
be connected with A「Aと関係がある」の形です。

(10) 正解 ⑨ who
A student who sleeps well の形です。who は先行詞 A student を修飾する関係代名詞です。

(11) 正解 ② clear
keep O C「OをCの状態に保つ」の形です。keeps the mind clear で「頭をはっきりした状態に保つ」となります。

(12) 正解 ⑬ as
see A as B「AをBとみなす」の受動態です。sleep should be seen as an important part of study となります。

(13) 正解 ① how
how they use their nights で「夜をどのように使うか」という間接疑問です。

(14) 正解 ⑤ help
help O 原形不定詞「Oが～するのを助ける」の形です。

(15) 正解 ⑪ tired
leave O C「OをCの状態にする」の形です。leave them tired で「彼らを疲れた状態にする」となります。

全訳

多くの生徒はテスト前に夜更かしをします。彼らは、勉強時間が増えればより

よい結果につながると考えます。最初は、この考えはもっともらしく思えるかもしれませんが、しかし、睡眠を減らすと勉強の効果が下がることがあります。疲れた脳はうまく働きません。十分に眠らない生徒は、自分が学んだことを覚えておくのが難しいと感じることがよくあります。また、授業中に十分注意を払えないために、簡単なミスをすることもあります。

睡眠は脳が情報を整理するのを助けます。生徒が眠っている間、脳は新しい考えを見直し、それを以前の知識と結びつけます。これが、睡眠が学習にとって重要である理由の一つです。生徒が何時間も教科書を読むことはありますが、その生徒が疲れすぎていけば、その時間は無駄になるかもしれません。夜遅くまで勉強することは、早めにやめてよく眠ることより役に立たないことがあります。よい睡眠は、翌日の勉強をより成功しやすくします。

睡眠不足は感情にも影響します。生徒が疲れていると、小さな問題が実際よりずっと大きく思えることがあります。生

徒は怒ったり心配したりしやすくなり、あとで後悔することを言ってしまうこともあります。授業中には、眠すぎて注意深く聞けないかもしれません。このようなことがよく起これば、学校生活は難しくなります。睡眠は健康だけの問題ではありません。気分、人間関係、日々の行動とも関係しています。

もちろん、生徒にはやるべきことがたくさんある場合もあります。同じ週に宿題、部活動、テストがあるかもしれません。それでも、生徒は睡眠を守ろうとすべきです。よく眠る生徒は、たいていより学ぶ準備ができています。十分な睡眠は頭をはっきりした状態に保ち、生徒が翌日に向き合うのを助けます。結局、睡眠は時間の無駄ではなく、勉強の重要な一部とみなされるべきです。生徒は夜の使い方について注意深く考えるべきです。健康的な生活リズムは、彼らがよりよく勉強するのを助け、悪い睡眠は翌朝彼らを疲れた状態にすることがあります。

become an athlete but to prepare the mind. In the end, what matters most is whether students can begin studying with a clear mind. Even a small amount of exercise can help by improving concentration and mood. For this reason, many students find that light exercise becomes a useful daily (14). Students who continue this practice often find (15) easier to begin studying and stay focused.

選択肢

- ① capable ② after ③ what ④ wasted
 ⑤ encouraged ⑥ running ⑦ reduce ⑧ it
 ⑨ increases ⑩ whereas ⑪ effort ⑫ habit
 ⑬ refreshed ⑭ likely ⑮ through

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					

解答

(1) ④ wasted (2) ⑬ refreshed
(3) ⑪ effort (4) ⑨ increases (5)
⑦ reduce (6) ① capable (7) ⑮
through (8) ③ what (9) ② after
(10) ⑩ whereas (11) ⑭ likely
(12) ⑤ encouraged (13) ⑥
running (14) ⑫ habit (15) ⑧ it

解答解説

(1) 正解 ④ wasted
time wasted で「無駄にされた時間」。
wasted は過去分詞で、time を後ろ
から説明しています。

(2) 正解 ⑬ refreshed
leave O C の形です。leave
students feeling more refreshed
で「生徒をよりすっきりした気分にする」
となります。

(3) 正解 ⑪ effort
the effort required で「必要な努
力」。required が effort を後ろから
修飾しています。

(4) 正解 ⑨ increases
主語は exercise です。exercise
increases blood flow で「運動は血
流を増やす」となります。

(5) 正解 ⑦ reduce
can の後ろなので動詞の原形が必要
です。reduce stress で「ストレスを減
らす」となります。

(6) 正解 ① capable
be capable of ~ing「~する能力が
ある」。capable of dealing with
difficult tasks で「難しい課題に対
処できる」となります。

(7) 正解 ⑮ through
through regular preparation で
「規則的な準備を通して」。手段・過程を
表す前置詞です。

(8) 正解 ③ what
understand what they read で
「読んだことを理解する」。what は
understand の目的語になる名詞節
を作ります。

(9) 正解 ② after
after a short walk で「短い散歩の
後で」。after は前置詞です。

(10) 正解 ⑩ whereas
「疲れたり緊張したりする生徒」と「退屈
する生徒」の対比です。whereas は
「一方で」を表します。

(11) 正解 ⑭ likely
be likely to V「~しそうである」。
more likely to begin studying で
「勉強を始めやすい」となります。

(12) 正解 ⑤ encouraged
feel encouraged で「励まされた気
持ちになる」。encouraged は形容詞
的に使われています。

(13) 正解 ⑥ running
Running hard for a long time で
「長時間激しく走ること」。running は
文の主語になる動名詞です。

(14) 正解 ⑫ habit
a useful daily habit で「有益な毎日
の習慣」という意味です。

(15) 正解 ⑧ it
find it C to V の形式目的語構文で
す。find it easier to begin
studying で「勉強を始めることがより
簡単だとわかる」となります。

全訳

多くの生徒は、机に座るとすぐに勉強を始めます。彼らは、本から離れて過ごす時間は無駄にされた時間だと考えることがよくあります。それにもかかわらず、勉強の前に短時間の軽い運動をすることは、学習を向上させるかもしれません。短い散歩や簡単なストレッチは、生徒をよりすっきりした気分にするがあります。その結果、生徒は自分の勉強によりよく集中できるかもしれません。ほんの数分の動きでも違いを生むことがあります、必要な努力は驚くほど小さいのです。

一つの理由は、運動が体全体の血流を増やすことです。より多くの酸素が脳に届き、それによって生徒はより明確に考えられるかもしれません。軽い運動はストレスを減らすこともできます。テストを心配している生徒は、数分間動き回った後、難しい課題により対処できると感じるかもしれません。学習は、規則的な準備を通して向上することが多く、運動はその過程の一部になり得ます。生徒はまた、軽く体を動かした後、自分が読んだことをより簡単に理解できることに気づくかもしれません。

短い散歩の後、多くの生徒はより目が覚め、勉強する準備ができたと感じます。運動は脳に役立つだけではありません。気分を改善することもできます。勉強の前に疲れたり緊張したりする生徒もいれば、一方で退屈を感じる生徒もいます。軽い運動はその両方のグループを助けるかもしれません。生徒は体が楽に感じられると、勉強を始めやすくなります。数分間動いた後、彼らは以前よりも励まされた気持ちになるかもしれません。

もちろん、勉強前の運動は簡単なものであるべきです。長時間激しく走るとは、逆の効果をもたらすかもしれません。目的は運動選手になることではなく、心を準備することです。結局、最も重要なのは、生徒がはっきりした頭で勉強を始められるかどうかです。少量の運動でさえ、集中力と気分を改善することによって役立つことがあります。このため、多くの生徒は軽い運動が有益な毎日の習慣になると気づきます。この実践を続ける生徒は、勉強を始めて集中し続けることがより簡単だと感じるがよくあります。

Of course, no one can be perfectly organized all the time. However, small habits can reduce forgetfulness. Students should check their bags (12) going to bed, not only in the morning. They should also avoid leaving school items (13) in different places around the room. Keeping things in order helps students feel calmer and makes it easier to remember (14) they need. If students make tidying up a daily practice, they may forget far fewer things. This shows that organization is not a small matter, but a useful skill (15) supports school life.

選擇肢

- ① harder ② what ③ itself ④ before
 ⑤ each ⑥ misplaced ⑦ that ⑧ searching
 ⑨ whose ⑩ easier ⑪ on ⑫ behind
 ⑬ necessary ⑭ away ⑮ where

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					

解答

(1) ③ itself (2) ⑥ misplaced (3) ⑬ necessary (4) ⑮ where (5) ⑤ each (6) ⑧ searching (7) ⑩ easier (8) ⑪ on (9) ① harder (10) ⑨ whose (11) ⑭ away (12) ④ before (13) ⑫ behind (14) ② what (15) ⑦ that

解答解説

(1) 正解 ③ itself
memory itself で「記憶そのもの」という意味です。itself は直前の memory を強調しています。

(2) 正解 ⑥ misplaced
items are misplaced で「物が置き違えられる」という受動態です。messy 「散らかった」と内容がつながります。

(3) 正解 ⑬ necessary
something necessary で「必要なもの」という意味です。-thing で終わる語は、形容詞が後ろから修飾します。

(4) 正解 ⑮ where
know where each thing is で「それぞれの物がどこにあるかを知る」となります。where は間接疑問を導きます。

(5) 正解 ⑤ each
books, pens, and papers each have their own place で「本、ペン、紙がそれぞれ自分の場所を持つ」となります。

(6) 正解 ⑧ searching
spend 時間 ~ing「~して時間を費やす」の形です。spend a long time searching for missing items で「なくなった物を探すのに長い時間を費

やす」となります。

(7) 正解 ⑩ easier
make it easier to V の形です。it は形式目的語で、to check before leaving home が真の目的語です。

(8) 正解 ⑪ on
depend on A「A に頼る」の形です。depend too much on memory で「記憶に頼りすぎる」となります。

(9) 正解 ① harder
feel harder than ~ の比較です。「実際より難しく感じられる」という意味になります。

(10) 正解 ⑨ whose
The student whose desk is always full of papers で「机がいつも紙でいっぱいの生徒」となります。whose は所有を表す関係代名詞です。

(11) 正解 ⑭ away
take away A「A を奪う」の形です。take away time and energy で「時間とエネルギーを奪う」となります。

(12) 正解 ④ before
before going to bed で「寝る前に」という意味です。before は前置詞で、後ろに動名詞 going が続いています。

(13) 正解 ⑫ behind
leave A behind「A を置き忘れる」の形です。leaving school items behind で「学校の持ち物を置き忘れる」となります。

(14) 正解 ② what
remember what they need で「自分たちに必要なものを覚えておく」となります。what は remember の目的語になる名詞節を作ります。

(15) 正解 ⑦ that
a useful skill that supports
school life で「学校生活を支える役
に立つ技能」となります。that は関係
代名詞で、先行詞 skill を修飾します。

全訳

一部の生徒は、教科書、ノート、宿題を持ってくるのをよく忘れます。彼らは、自分は単に記憶力が悪いのだと言うかもしれませんが。本当の問題は、時には記憶そのものではありません。それは、家で物をどのように保管しているかにあるのかもしれませんが。机やかばんがいつも散らかっていると、大切な物は簡単に置き違えられてしまいます。物をすぐに見つけられない生徒は、必要な物を持たずに家を出てしまうことがあります。このように、忘れ物は、生徒が家を出る前から始まっていることがあります。

片付けは、単に部屋をきれいに見せるためだけのものではありません。それはまた、生徒がそれぞれの物がどこにあるかを知る助けにもなります。本、ペン、プリントがそれぞれ決まった場所を持っていれば、生徒はより簡単に学校の準備ができます。朝に、なくなった物を探すために長い時間を費やす必要はありません。簡単なルールが役立つことがあります。たとえば、宿題を毎日同じフォルダーに入れることで、家を出る前に確認しやすくなります。そのような習慣は小さ

く見えるかもしれませんが、とても実用的です。

物を片付けない人は、記憶に頼りすぎることがよくあります。彼らはすべてがどこにあるかを覚えていると思っていますが、これはいつも正しいとは限りません。疲れていたり急いでいたりすると、大切な物でさえ忘れてしまうことがあります。散らかった部屋は、小さな作業を実際よりも難しく感じさせることもあります。生徒は一枚のプリントを探すために時間を無駄にすることがあり、それによってさらにストレスを感じることもあります。机がいつもプリントでいっぱい生徒は、何を最初にすべきかを決めるのも難しいと感じるかもしれません。無秩序は時間とエネルギーを奪うことがあります。

もちろん、誰も常に完璧に整理整頓できるわけではありません。しかし、小さな習慣は忘れ物を減らすことができます。生徒は朝だけでなく、寝る前にかばんを確認すべきです。また、学校で使う物を部屋のあちこちに置き忘れることも避けるべきです。物を整理しておくことは、生徒が落ち着いて感じる助けとなり、必要な物を思い出しやすくします。もし生徒が片付けを毎日の習慣にすれば、忘れる物のはるかに少なくなるかもしれません。これは、整理整頓が小さなことではなく、学校生活を支える役に立つ技能であることを示しています。

give people a wider view of themselves.

Of course, joining many groups does not always bring peace. Life may become too busy if a person tries to please everyone. The important point is not just the number of groups, but the quality of the connections. People need places where they can speak honestly. A good group makes people feel (13), not judged. In this way, having several places to belong can give people quiet comfort. It (14) them that they do not have to face every worry alone. This idea may seem simple, (15) it is one of the reasons people feel secure in society.

選擇肢

- ① purpose ② as ③ can ④ welcomed
- ⑤ why ⑥ if ⑦ less ⑧ yet
- ⑨ no ⑩ the ⑪ reminds ⑫ while
- ⑬ when ⑭ ease ⑮ secure

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					

解答

(1) ③ can (2) ⑤ why (3) ⑨ no
(4) ⑬ when (5) ⑦ less (6) ⑫
while (7) ① purpose (8) ⑩ the
(9) ⑮ secure (10) ② as (11) ⑥ if
(12) ⑭ ease (13) ④ welcomed
(14) ⑪ reminds (15) ⑧ yet

解答解説

(1) 正解 ③ can
Having several groups can make
the mind feel safer. の形です。
can は助動詞で、「～することができる」
「～し得る」を表します。

(2) 正解 ⑤ why
This is why S V「これが～する理由
である」の形です。ここでは「これが、複
数の集団に所属することが心の健康を
支える理由である」となります。

(3) 正解 ⑨ no
no reason to V「～する理由がない」
の形です。no reason to depend on
only one place で「一つの場所だけ
に頼る理由がない」となります。

(4) 正解 ⑬ when
when life is difficult で「人生が困
難なとき」という意味です。when は時
を表す副詞節を導きます。

(5) 正解 ⑦ less
feel less afraid of problems で
「問題をそれほど恐れなくなる」という意
味です。less は比較級で「より少なく」
を表します。

(6) 正解 ⑫ while
A, while B「A である一方で B」の形
です。クラブと家族の役割を対比してい

ます。

(7) 正解 ① purpose
its own purpose で「それぞれ各自
の役割・目的」という意味です。own と
結びついて名詞 purpose が入ります。

(8) 正解 ⑩ the
the support of one group で「一つ
の集団からの支援」という意味です。後
ろの of one group によって
support が限定されています。

(9) 正解 ⑮ secure
make a person feel more secure
の形です。secure は「安心した」という
形容詞で、feel の補語になります。

(10) 正解 ② as
as they meet others with
different ideas で「異なる考えを持
つ人々と出会うにつれて」という意味で
す。

(11) 正解 ⑥ if
if one role becomes difficult で
「もし一つの役割が難しくなったら」とい
う条件を表します。

(12) 正解 ⑭ ease
ease anxiety で「不安を和らげる」と
いう意味です。can の後ろなので動詞
の原形 ease が入ります。

(13) 正解 ④ welcomed
feel welcomed で「歓迎されていると
感じる」という意味です。welcomed
は形容詞的に使われています。

(14) 正解 ⑪ reminds
remind A that S V「A に～というこ
を思い出させる」の形です。主語 It が
三人称単数なので reminds になりま
す。

(15) 正解 ⑧ yet

A, yet B「Aだが、それでもB」の形です。前後が逆接関係なので yet が適切です。

全訳

多くの人は複数の集団に所属しています。生徒は家族、クラス、部活動、友人グループなどに所属しているかもしれません。これらの集団は、人々に受け入れられていると感じられるさまざまな場所を与えてくれます。もし人が一つの集団にしか属していなければ、その集団で起こる問題は非常に深刻に感じられるかもしれません。複数の集団を持つことは、心をより安心させることができます。もし一つの場所が居心地の悪いものになっても、別の場所が支えを与えてくれるかもしれません。これが、複数の集団に所属することが心の健康を支える理由です。それは、人々に一つの場所だけに頼る理由を与えません。このようにして、人生が困難なときでも心はより安定しやすくなります。

帰属意識は、人々が問題をそれほど恐れなくなる助けとなります。誰かが自分を気にかけてくれているとわかれば、生徒はストレスにより落ち着いて向き合うことができます。部活動は学校外で自信を与える一方で、家族は家庭で支えを与えてくれます。それぞれの集団には独自の役割があります。そして、それらが合わさることで人生はより安定したものになります。一つの集団は勉強を助け、別の集団は感情面を支えるかもしれま

せん。所属する場所が多いほど、一つの集団からの支援を失うことへの不安は小さくなります。

異なる集団は、人々が自分自身をさまざまな形で見るとともに助けてくれます。クラスではおとなしい生徒が、運動部では活発かもしれません。学校では自信がない人が、家庭では頼りにされているかもしれません。こうした経験は、人をより安心させます。また、一つの失敗がその人のすべてを決めるわけではないことも教えてくれます。人は異なる考えを持つ人々と出会うにつれて、より心を開くようになるかもしれません。もし一つの役割がうまくいかなくなっても、複数の役割を持つ人は立ち直りやすくなります。このような経験は不安を和らげ、自分自身をより広い視点で見るとともに助けてくれます。

もちろん、多くの集団に所属することが必ずしも幸福をもたらすわけではありません。誰もかれも喜ばせようとする、人生は忙しすぎるものになるかもしれません。大切なのは集団の数だけではなく、そのつながりの質です。人々には本音を話せる場所が必要です。良い集団は、人を批判するのではなく、歓迎されていると感じさせます。このように、複数の帰属先を持つことは人々に静かな安心感を与えてくれます。それは、人々に一人ですべての悩みを抱える必要はないことを思い出させます。この考えは単純に見えるかもしれませんが、それでも人々が社会の中で安心感を持つ理由の一つなのです。

資料1 品詞は語尾で見抜け!

— 英文解釈の第一歩 —

英文を正確に読むために最も大切なのは、単語の意味を覚えることではありません。まず「その単語が何詞なのか」を見抜くことです。実際、大学入試の英文では知らない単語が出てきても、語尾を見て品詞を判断できれば文構造をかなり正確に把握できます。

例えば、happiness の -ness を見れば名詞、dangerous の -ous を見れば形容詞、simplify の -ify を見れば動詞、carefully の -ly を見れば副詞だと分かります。つまり、語尾は品詞を教えてくれる重要な手がかりなのです。

1 名詞を作る代表的な語尾

名詞の語尾には、「性質・状態」を表すものと、「人」を表すもの、「動作や結果」を表すものがあります。

1-1 性質・状態を表す語尾

- -ness (happiness, darkness)は「～であること」
- -ty / -ity(safety, activity, beauty)は「性質・状態」
- -ce / -cy (difference, privacy)は「状態・性質」
- -th(warmth, length)は「程度・状態」

1-2 人を表す語尾

- -er / -or(teacher, actor)は「～する人」
- -ist(scientist, artist)は「専門家・主義者」
- -ee(employee, trainee)は

「～される人」

- -ant / -ent (assistant, student)は「～する人」

1-3 動作・結果を表す語尾

大学入試で特に重要なのが -tion / -ation(information, decision)と -ment(development, government)です。これらは「動作・結果」を表す名詞を作ります。英文中で見かけたら、まず名詞を疑いましょう。

1-4 概念・制度を表す語尾

その他にも、-ship(friendship)、-hood (childhood)、-dom(freedom)、-ics(economics)なども名詞語尾として頻出です。

2 形容詞を作る代表的な語尾

形容詞は名詞を説明する語です。語尾を見ると形容詞だと判断できる場合が多くあります。

2-1 「～に満ちた」を表す語尾

- -ful(beautiful, careful)は「～に満ちた」
- -ous(famous, dangerous)は「～の特徴がある」
- -y(sunny, rainy)は「～でいっぱい」

2-2 「～できる」を表す語尾

- -able / -ible (capable, possible)は「～できる」
- -ive(active, creative)は「～する傾向がある」

2-3 「～の・～的な」を表す語尾

- -al(natural, social)
- -ic(historic, economic)
- -ish(childish, foolish)

なお、friendly, lovely, lively, lonely は -ly で終わっていますが副詞ではなく形容詞なので注意しましょう。

3 動詞を作る代表的な語尾

動詞の語尾は比較的少なく、主に「～にする」「～化する」という意味を持ちます。

3-1 「～にする・～化する」を表す語尾

- -ize / -ise (realize, globalize)
- -ify / -fy (simplify, justify)
- -en (shorten, widen, strengthen)
- -ate (activate, create)

大学入試では、-ize と -ify を見たらまず動詞を疑う習慣をつけましょう。

4 副詞を作る代表的な語尾

副詞の語尾はほぼ -ly です。

carefully, slowly, quickly のように、形容詞に -ly が付くことで「～に」という意味の副詞になります。

副詞は動詞・形容詞・文全体を修飾するため、文構造を理解するうえで重要な目印になります。

資料 2 品詞は位置で見抜け！

— 英文解釈の第二歩 —

英文解釈では、単語の意味を覚えることも大切ですが、それ以上に重要なのは「その単語が何詞か」を見抜くことです。英語は語順の言語なので、単語の位置を見るだけで入る品詞がかなり限定されます。空所補充問題では、意味ではなく、まず位置から考える習慣をつけましょう。

1 名詞の前なら形容詞

形容詞の基本的な働きは名詞を修飾することです。したがって、□ + 名詞 の形なら形容詞を疑います。a beautiful flower, the difficult problem の beautiful や difficult は形容詞です。

2 SVの前なら接続詞

接続詞は文と文をつなぎます。したがって、SV □ SV の形なら接続詞が有力です。I was tired, but I continued studying. や She stayed home because it was raining. の but や because がこれに当たります。

3 名詞の後ろなら前置詞

前置詞は後ろに名詞を伴います。したがって、名詞 □ 名詞 の形なら前置詞を疑います。the book on the desk, the key to success の on や to は前置詞です。

4 前置詞の後ろなら名詞要素

前置詞の後ろには名詞しか置けません。正確には名詞として働くもの(名詞要素)が置かれます。in the room の room, with happiness の happiness, by studying の studying はすべて名詞要素です。

5 他動詞の後ろなら名詞要素

他動詞は目的語を必要とします。したがって、他動詞 □ の形なら名詞要素を疑います。I like music. の music, She bought a book. の book は名詞です。I know that he is honest. では that 節全体が名詞節として目的語になっています。

6 自動詞の後ろなら副詞

自動詞は目的語を取れません。そのため、自動詞の後ろには副詞が置かれることが多くなります。He runs quickly. の quickly、She smiled happily. の happily は副詞です。

7 be 動詞の後ろなら形容詞

be 動詞の後ろは補語になります。最もよく置かれるのは形容詞です。She is happy.、The problem was serious. の happy、serious は形容詞です。

8 感覚動詞・状態動詞の後ろなら形容詞

look, seem, become, feel, sound, remain などの後ろも補語になります。He looks tired.、The plan seems impossible. の tired、impossible は形容詞です。

9 助動詞の後ろなら動詞原形

助動詞の後ろは必ず動詞の原形です。can speak、will arrive、must study の speak、arrive、study はすべて原形です。

10 to の後ろなら動詞原形

不定詞の to の後ろも動詞原形です。to study、to become、to understand の study、become、understand は原形です。

11 very の後ろなら形容詞・副詞

very は形容詞または副詞を修飾します。very important の important

は形容詞、very quickly の quickly は副詞です。

12 冠詞の後ろなら名詞か形容詞

a, an, the の後ろには最終的に名詞が来ます。ただし、その前に形容詞が入ることがあります。a book、a useful book、the important problem などがその例です。

13 所有格の後ろなら名詞

my, your, his, her, their の後ろには名詞が来ます。my book、his idea、their school の book、idea、school は名詞です。

14 まとめ

空所補充では、まず意味を考えないことが大切です。

① 前後を見る

↓

② 品詞を決める

↓

③ 文構造を確認する

↓

④ 最後に意味を考える

という順番で解きます。

名詞の前なら形容詞。SVの前なら接続詞。前置詞の後ろなら名詞要素。他動詞の後ろなら名詞要素。be 動詞の後ろなら形容詞。助動詞や to の後ろなら動詞原形。

この判断が瞬時にできるようになると、英文解釈は一気に楽になります。